重要特定課題	北上らしい未来の暮らし方の創造（北上ライフスタイルデザインプロジェクト）	
部課等名	生活環境部　環境政策課	
関連施策（総合計画）	政策体系4-1-3	地球温暖化防止対策の推進
関連施策（総合戦略）	施策（４－②）	地域資源を活かした都市・地域拠点の形成
	具体的な取組み	自然環境と調和したライフスタイルの構築

■１．目的適合性（公益性）　※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
① 総合計画に沿った取り組みをしているか。	○	×
② 国・県・民間との競合はないか。代替可能な類似の事業がないか。	○	△
③ 取り組み廃止により市民は不利益を被るか。	△	×

市担当部課の評価

	☑ A．適切	□ B．概ね適切	□ C．改善が必要	□ D．抜本的な改革が必要
評価の理由	①について 制約のある環境でも我慢するのではなく心豊かで持続可能な生活を送るような暮らし方を考える事業であり、環境負荷の低い北上らしいライフスタイルを提案するとしている総合計画に合致している。 ②について 特になし。 ③について 持続的で心豊かな暮らし方へ転換していくことは市民に有益であり、長期的には事業廃止による市民への不利益の可能性は否定できない。			

政策評価委員会の評価

	□ A．適切	□ B．概ね適切	□ C．改善が必要	☑ D．抜本的な改革が必要
政策評価委員の意見	①－１　北上らしい未来の暮らし方の創造（「北上ライフスタイルデザインプロジェクト」）の課題は、総合計画にうたっている地球温暖化防止策のための取り組みとしては間違ってはいないが、その内容は総合計画の目標に向けての距離が遠すぎるように思える。また、このプロジェクトだけが独立した一つの事業として切り離されて推進されているように思える。今一度、このプロジェクトの位置づけ、役割を高い位置から眺めて、事業のプログラムを考			

	える必要があるのではないか。 ①－２　本事業は、総合計画の政策体系4－1－3「地球温暖化防止対策の推進」に位置づけられている。無関係とは言えないが、本事業の実施が地球温暖化の防止に直接貢献するわけではない。 ①－３　本事業の目的は、持続可能な社会の形成を目指し、北上らしいライフルタイルとは何かを子ども達が楽しみながら取り組んでいくことであり、必ずしも「地球温暖化対策」という施策の範疇に収まる取組とは考えがたい。 ①－４　総合計画における政策体系における「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、成果指標との因果関係は稀薄である。 ①－５　地球温暖化防止対策の効果が全くないとは言わないものの、その取り組みの効果は間接的なものにとどまり、目的と手段の関係も曖昧である。 ②－１　「地球環境保全の推進」は世界的な課題であり、多くの自治体で取り組んでおり、それぞれが地域の実情にあった取り組みをしている。またこのようなプロジェクトも事業に関する表現などはそれぞれ異なるが、同様の趣旨で同様の取り組みをおこなっている地域・主体は少なくない。この課題は様々な主体が多様な取り組みをできるだけ多く行われることが望ましいのであり、競合などをそれほど重視する必要はない。なお市内での代替事業はみあたらないが、たとえ民間で行われる事業があったとしても、市の事業はこれを支援・促進する役割を果たす方向で推進すれば良いのではないか。 ②－２　同様の事業は他の機関では実施されていない。 ②－３　地球温暖化防止対策推進の事業と考えると競合はないが、SDGs推進のための事業と考えると国の事業に代替えの可能性があるかも知れない。 ②－４　他事業者との競合はない。「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、より施策効果の高い事業があると考えられる。 ②－５　地球温暖化防止という目的に照らせば、ライフスタイルのデザインなどと大上段に構える必要はなく、省エネ・省資源の呼びかけなど、より簡単で直接的な取り組みで代替可能であると思われる。 ③－１　「防止対策」全体の基盤となる本取り組みが廃止されれば市民の不利益となるはずだが、このプロジェクトだけについてみれば、このままでは市民にそれほど不利益となることは考えられない。 ③－２　直接的な不利益はあまりない。 ③－３　本取組は未来志向型の取組であり、直接的な不利益は生じない。 ③－４　「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、特に不利益は被らないものと考えられる。 ③－５　取り組み廃止による市民の不利益は、ほとんど想定できない。

■２．実施状況（計画性および効率性）　※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①　計画的に取り組みを行っているか。	○	×
②　効率的な取り組みとなっているか。	△	△
③　市民ニーズを適切に把握できているか。	×	×
④　他市町村に比較しての優位性はあるか。	○	△

市担当部課の評価

評価の理由	□　Ａ．適切	□　Ｂ．概ね適切	☑　Ｃ．改善が必要	□　Ｄ．抜本的な改革が必要

①について
　事業開始当初は市職員ワークショップをもとに政策提案を行うとしていたが、その後計画変更を行い、現在はモデル地区を設定して地域住民によるライフスタイル実践活動を行っている。

②について
　現在は地域活動が主体となっており、アドバイザー及び地域間との調整に労力を要し、必ずしも効率的とは言えない。

③について
　環境問題、暮らし方の転換に関心のある市民・地域・団体の把握が難しく、ニーズを適切に把握できてはいない。

④について
　全国的には兵庫県豊岡市・三重県志摩市・鹿児島県沖永良部島などで取り組みが行われているが、周辺市町村では行われていないものである。

政策評価委員会の評価

政策評価委員の意見	□　Ａ．適切	□　Ｂ．概ね適切	□　Ｃ．改善が必要	☑　Ｄ．抜本的な改革が必要

①－１　「地球温暖化の防止」に結びつけて行くためのプログラムが明快ではない。また目標を「自然と調和したライフスタイルの構築」だとしても、実現のための論理的なプログラムとは言えず場当たり的な感がある。
①－２　Ｈ26年度から着実に事業を実施してきた。
①－３　本取組は、北上市が掲げる「豊かな自然と先端技術が調和した魅力あふれるまち」を実現していくために、ネイチャーテクノロジーを活用した環境調和型の持続発展する北上市を形成（北上型SDGs）していくための先導的な事業と位置づけるのがより合理的であり、単なる「地球温暖化防止対策の推進」の中に位置づける取組では無いと考える。
①－４　プロジェクトの目標と「地球温暖化防止対策の推進」という施策との相関性が希薄なため、計画的な取り組みとは言い難い。
①－５　「北上市再生可能エネルギー活用推進計画」に掲げられた７つの重点プロジェクトのうち、「北上ライフスタイルデザインプロジェクト」以外の６プロジェクトについては、その取組内容として支援、促進、検討等の具体的な実施項目が示されているが、ライフスタイルに関しては「北上ライフスタイルデザインプロジェクト」と全く同じ文言がなぞられているだけである。これは、市役所内部でも具体的に何に取り組んだらよいかのコンセンサス

	が得られていないためではないかとの疑問を生じさせるものであり、取り組みそのものにも十分な計画性が感じられない。 ②－１　目標が不明確であり、したがって効率性を判断する段階にないものと考える。 ②－２　口内、展勝地での地域活動が、どの程度「北上らしい未来の暮らし方」に結びつくかは今のところ不明。 ②－３　①の趣旨に鑑み、より広範な施策体系の中に位置づけられるべきものであり、「地球温暖化防止対策の推進」の中の施策とした場合には、必ずしも効率的とはいえない。 ②－４　プロジェクトの目標と「地球温暖化防止対策の推進」という施策との相関性が希薄なため、効率的な取り組みとは言い難い。 ②－５　取り組みそのものの計画性に疑問があるところ、効率性を論ずることはできない。 ③－１　事業そのものは有益な取り組みだと考えるが、どのような市民ニーズに応えようとしているかはわからない。したがって市民ニーズを適切に把握しているかどうかはわからない。 ③－２　市民のニーズを把握する取り組みは行われていないようである。 ③－３　市民ニーズは潜在的と考えるべきである。 ③－４　プロジェクトにおけるワークショップのメンバーは、市職員や公共セクターのスタッフが中心になっており、広く市民ニーズが取り入れられているとは言い難い。 ③－５　目的と手段の関係が曖昧であるため、そもそも市民ニーズの把握自体が困難と思われる。 ④－１　県内でも幾つかの市町村内で、目的や主体は多様だが同様の内容で取り組まれている活動が見られ、他市町村に対して優位性があるとは言えない。しかし、このテーマで他市町村との優位性などを考える必要はそれほどなく、それぞれの自治体が目標に近づくことができればよいのではないか。 ④－２　他市町村に比較した独自性はあるかもしれないが、優位性があるとは判断できない。 ④－３　県内では優位性があるが、地球温暖化防止対策を推進するためのSDGsの取り組みと捉えた場合、全国的には北海道下川町など木材の利活用に取り組み目標を絞って明確にした先進的な取組も見られる。 ④－４　「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、高い優位性は認められない。 ④－５　全国的にはともかく、県内ではユニークな取り組みと思われ、政策体系における位置づけの整理等がきちんとできれば優位性のある取り組みとなる可能性は認められる。

■３．成果と課題　　※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①　目的に沿った十分な成果を上げているか。	△	×
②　課題を適切に把握できているか。	△	×

市担当部課の評価

	□　Ａ．適切	□　Ｂ．概ね適切	☑　Ｃ．改善が必要	□　Ｄ．抜本的な改革が必要
評価の理由	①について 　シンポジウム開催により市民へのこれまでの活動の報告や周知を図ってきたが、目に見える成果の判断が難しい。 ②について 　描いたライフスタイルと実際に取り組むことが可能なライフスタイルには大きなギャップがある。また、大量消費型の暮らし方からの転換が必要ということは市民が認識できたとしても、実際に市民に行動を促すための訴求が難しい。			

政策評価委員会の評価

	□　Ａ．適切	□　Ｂ．概ね適切	□　Ｃ．改善が必要	☑　Ｄ．抜本的な改革が必要
政策評価委員の意見	①－１　本プロジェクトの位置づけが不明解で、そのための事業として適切かどうかがわからないので成果の評価はし難い。 ①－２　目的が「地球温暖化の防止」だとすれば十分な成果を上げているとは言えない。 ①－３　施策と取組の関係が中途半端であることは否めない。 ①－４　「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、成果指標との因果関係は稀薄であり、成果を上げているとは言い難い。 ①－５　目的と手段の関係が曖昧なため、そもそも何が成果かよく分からず、そのため成果指標の設定も適切かどうか評価しがたい。 ②－１　本プロジェクトの位置づけ、目的が不明解のため、課題が見えているかどうかはわからない。 ②－２　総合計画に適切に位置づけにくいということが課題だとすれば、それは把握されているようだが、どのようにすべきかはこれからの検討事項である。 ②－３　施策での位置づけからして、適切に把握できているとはいえない。 ②－４　「地球温暖化防止対策の推進」という観点からは、プロジェクトにおいて適切に課題が把握できているとは言い難い。 ②－５　ライフスタイルをデザインするという観点から課題を把握しようとするのは、目的（地球温暖化防止対策の推進）と手段の関係からみて本末転倒である。			

■４．今後の対応　　※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①　市の今後の対応は適切な方向性にあるか。	△	×
②　成果を十分に上げることが見込めるか。	△	×
③　施策の目的のために必要な取り組みは網羅されているか。	△	×

市担当部課の評価

評価の理由	☐ Ａ．適切	☐ Ｂ．概ね適切	☑ Ｃ．改善が必要	☐ Ｄ．抜本的な改革が必要

①について
　持続可能な生活を送ることができる暮らし方の研究という方向性は適切であるが、さらに活動の広がりや新たな地区・団体等への展開が必要である。

②について
　新たなライフスタイルの検討・実践は容易ではなく、暮らし方の転換に至るまでの十分な成果を上げることは難しい。

③について
　事業の出発点は地球環境問題だったが、取り組みは政策やまちづくりなど多岐に及んでおり、環境のみの事業ではなくなっているが、関係する部課の横断的な連携は取れていない。

政策評価委員会の評価

政策評価委員の意見	☐ Ａ．適切	☐ Ｂ．概ね適切	☐ Ｃ．改善が必要	☑ Ｄ．抜本的な改革が必要

①－１　今後の対応方向が見えない。「防止対策」のなかでの位置づけを再点検し、適切な本事業の目標を整理してそのためのプログラムを再構築する必要がある。
①－３　平成23年に策定された総合計画の施策の体系のいずれかに位置づけることが必要であるとの考えに縛られ過ぎており、結果として適切な方向に向かっているとは言えない。
①－４　プロジェクト自体の意義を否定するものではないが、「地球温暖化防止対策の推進」という施策との相関性が希薄なため、プロジェクトの位置づけについて見直しを行うべきである。
①－５　目的と手段の関係が曖昧、というよりはバランスが崩れているため、抜本的な見直しが必要である。

②－１　現状のままでは目標に近づけられるか疑問。「防止対策」のなかでの位置づけを再点検し、適切な本事業の目標を整理してそのためのプログラムを再構築することが先決ではないか。
②－３　SDGs実現に向けた国際社会、国内先進自治体の取組はダイナミックに動き始めており、現在の事業計画のままでは遅れをとる可能性が高い。
②－４　現状の政策体系における成果指標を前提とすると成果を上げることは見込めないと考えられる。
②－５　このまま取り組みを継続しても成果は期待できない（そもそも何が成果か分からな

	い）。 ③－１　目的・位置づけが明確でないと必要な対策・取り組みを提示することは難しい。目的を実現するための課題を整理し、そのために必要な取り組みを明らかにする必要がある。 ③－３　論点、問題意識がずれていると言わざるを得ない。 ③－４　施策の目的とプロジェクトの相関性が希薄なため、施策目的に対して効果が見られない取り組みとなっている。 ③－５　施策の目的のために必要な取り組みが何であるか、根本から再検討が必要である。

■５．総括意見

政策評価委員の意見	①－１　自然環境に調和したライフスタイルの構築という視点は、総合計画にうたっている地球温暖化防止策のための取り組みとしては重要であるが、現状における取り組みの内容は目標に向けて距離が遠すぎる感がある。また、これだけが個別のプロジェクトとして事業を推進しているように見受けられる。プロジェクトの地球温暖化防止策全体における位置づけを再点検し、そのうえで事業推進に必要な論理的なプログラムを整理する必要がある。 これらの取り組みについては、なかには市民・NPOなどが主催するもので優れた活動があり、これらを誘発・促進・支援する仕組みを用意することも有効ではないかと考える。このことは、「北上市再生可能エネルギー活用推進計画」のなかで述べられているのだが、本プロジェクトのなかでこれらの主体の位置づけが不明解で、その役割もシステム化されていないように見受ける。 ①－２　総合計画策定後に着手した事業のため、総合計画の中にうまく位置づけられていない。そのため、総合計画に基づいて事業評価することは困難である。 総合戦略の「地域資源を生かした都市・地域資源の形成」という施策に基づいて評価するならば、口内及び展勝地の地域事例から「北上らしいライフスタイル」を見いだす可能性は秘めているかもしれない。ただし、まだ試行的段階に留まっており、評価を下せる段階ではないだろう。 ①－３　地球温暖化防止対策の取組は、「持続可能」をキーワードにSDGsへと大きく変わりつつあり、この考えに従って北上市も独自の取組施策を有する時期に来ている。 　本取組は、その意味でもSDGsの先導的な取組と位置づけ直すことが可能な取組であると見ることができる。 ①－４　総合計画における関連施策との相関性が希薄なため、プロジェクトの目標設定や取り組みが迷走する可能性があり、政策体系における位置づけの見直しが必要である。 総合戦略において施策４-②「地域資源を活かした都市・地域拠点の形成」の具体的な取組み「自然環境と調和したライフスタイルの構築」としても位置付けられているが、同施策の4つの重要業績評価指標のいずれもプロジェクトとの関連性は希薄である。唯一「地域が主体となって行う分の地域計画の進捗率」との関連性がありそうには見えるが、現時点においては、プロジェクトは、市主導で行われている側面が高く、地域が主体となっているとは言い難い。 ①－５　あくまでも地球温暖化防止対策の推進という観点（目的）から評価する限りでは、非常に厳しい評価とならざるを得ない。この目的に即した取り組みとしては、例えば「電気のつけっぱなしはやめよう」「できるだけバスなどの公共交通機関を利用しよう」などといった呼びかけ等を通じて日常の生活習慣レベルでの改善を図る、といった程度の内容で十分と思われる。換言すれば、この目的に対して北上らしい新しいライフスタイルをデザインするというプロジェクトは大掛かり過ぎると思料する。

■６．その他特記事項・参考意見等

政策評価委員の意見	①－１　「自然環境に調和したライフスタイルの構築」「自然エネルギーの活用」などに限ってみれば、近年地球温暖化防止が大きく叫ばれるようになった以前・当初から、国内外で様々な有益な取り組みが行われてきた。事例調査は、最近の事例だけでなく、以前から取り

	組まれてきた事例の中にも優れたものがあり、さらに視野を広げて学ぶことを期待する。 ①－４　プロジェクトありきの中で、無理に当該政策体系に位置付けられたように見受けられる。プロジェクト自体の意義は認められるものであり、必要性が高いのであれば、総合計画の枠組みの見直しを行ってでも、政策体系に収まるように位置づけの見直しをすべきである。 　ライフスタイルというプライベート（私的）な課題を扱うプロジェクトであるにもかかわらず、当初のワークショップの参加者が市職員中心であることが気になる。 また、口内をモデルとした事業以降、市全体への波及に向けての進め方や成果指標の進捗目標など、プロジェクトの将来的な展開が見えにくい。 ①－５　北上ライフスタイルデザインプロジェクトそのものの取り組みについては、決して否定されるべき方向性のものではない。あくまでも地球温暖化防止対策の推進という目的に対する解決手段としてはバランスが取れていないという評価である。むしろ、このプロジェクト自体を大きな政策項目の一つとして位置づけ、手段ではなく目的として捉えなおし、政策体系の再整理がなされることにより、有意義な事業として花開いていく可能性があると期待されるところである。